

社協名	社会福祉法人 人吉市社会福祉協議会
-----	-------------------

住 所	熊本県人吉市西間下町 41 番地 1
電 話	(0966) 24-9192
ファックス	(0966) 25-1117
担当部署及び担当者	地域福祉班 主事 森山広美

テーマ番号	事業・取組み名
7	「西校区社協ニコニシ食堂」の開設、運営 ※校区社協の事業として取組み、社協地域福祉コーディネーターが実施に向けて後方支援を行った。

取組みのきっかけ

校区社協の子育て支援事業の中で、困窮世帯の子どもの食への支援が出来ないかという発想から、まず小学校の児童と保護者へアンケート調査を行った。その結果、困窮世帯だけでなく、共働き家庭での孤食やネグレクト、子どもが安心して過ごすことができる居場所がほしい等、様々な理由で食の支援や居場所が必要な子どもがいることが分かった。また保護者から、地域の人とふれあう機会を持ちたい、ボランティアとして参加したいという意見も多数あったことから、子ども食堂を通じて、世代間交流や新たなボランティア人材の発掘に繋げていきたいという願いも込めて、平成29年度は試験的に取り組むこととなった。

* 取組み開始日（ 平成29年8月 ）

具体的な取組み内容と実施体制

アンケートでもっとも希望が多かった週末の昼食を提供日に設定し、校区のコミュニティセンターで、2月と3月に1回ずつ開催した。実施前にはアンケートの結果報告と子ども食堂の案内を配布した。資金は校区社協の事業費から、対象は校区小学校の児童で無料提供とした。

第1回は9名の児童が参加し、事業に協力的な家庭から親子での参加もあった。その後、広告作成のボランティアの方に、子どもに向けた案内チラシを作成していただき、小学校や町内回覧版等、様々な機会を通じて周知に努めた。

第2回は20人以上の参加があり、子どもだけでの参加も多かった。2回の実施の結果を校区社協で検証し、平成30年度は対象を中学生まで広げ、子供は無料、大人は実費をいただくこととなった。

事業実施の効果

- ・ 校区社協の支援スタッフと地域のボランティアが主体となって、起案から実施まで行うことができた。やらされるのではなく、自分たちがやりたいことに取り組むことでの達成感を感じることができた。
- ・ アンケート調査や実際に児童と接する中で、家庭環境や、普段の生活の様子を校区社協の支援スタッフが知ることができた。
- ・ 校区社協の存在のアピールをすることができた。誰が、何を行っているかを知っていただくことができた。
- ・ 以前から、他事業でボランティアへの参加の呼びかけをしても、反応が薄かったが、子ども食堂では保護者のボランティア参加の意識が高く、地域の仲間として時間を共有することが出来た。

今後に向けて(課題など)

- ・ 事業費の捻出について。校区社協の事業費だけでなく、野菜等の材料を校区内から提供していただく等、校区内の支援の輪を広げていきたい。
- ・ 西校区の子どもを対象とした子育て支援事業だが、他校区の子どもの参加があった。他校区でも関心が高い事業であり、先駆的な存在として人吉市内に子ども食堂を広めていきたい。

みんな笑顔! たのしい! おいしい!

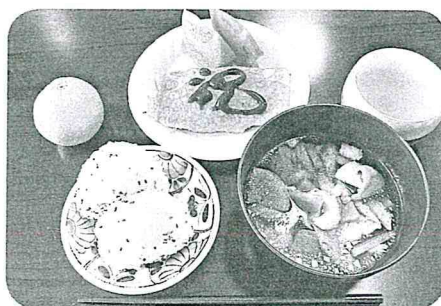
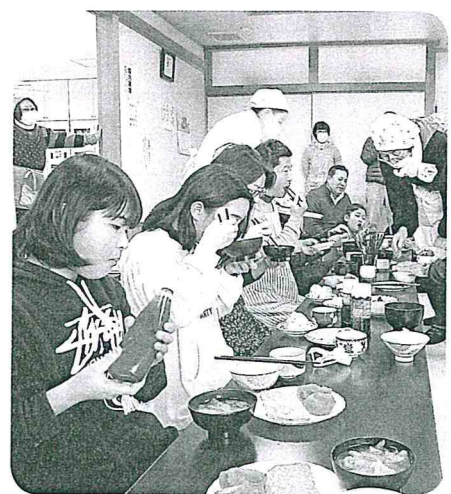
西校区社協主催

ニコニシ食堂がはじまりました

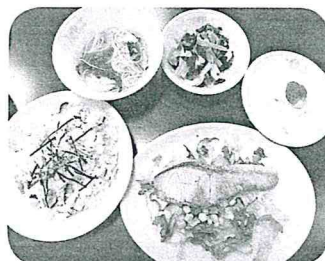
西校区社協の子育て支援事業として、2月4日(日)と3月3日(土)の2日間、東西コミセンで“ニコニシ食堂”を開催しました。“ニコニシ食堂”は、西小学校の児童や保護者と地域の人たちが、楽しく会話をしながら一緒に料理や食事を通して、地域住民同士の交流、子どもの健やかな成長や郷土を愛する心をはぐくみたいという、西校区社協の皆さんの熱い気持ちのもとに始まりました。

2月4日の“ニコニシ食堂”には、この日初めて包丁をにぎったという児童もいましたが、ベテラン主婦でもあるスタッフに教わりながら野菜を切ったり、団子をこねたり、最後は「じょうずにできたよ!」とにっこり笑顔でできたての料理をたくさん食べてくれました。

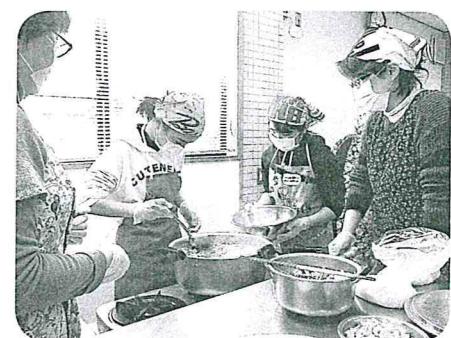
3月3日は、親子での参加や、子どもたちだけでの参加等23人の児童が集まり、西校区社協の皆さんからも「和気あいあいと楽しい時間を過ごせて良かった!」と喜びの声が上がりました。



2月4日のメニュー



3月3日のメニュー



西校区社協
白石 信雄会長

スタッフに恵まれニコニシ食堂のスタートを切ることが出来ました。これから徐々に広めて参加者を増やしていきたいです。



4月以降のニコニシ食堂の日程は、町内回覧等でお知らせします。

人吉市西校区

料理も心も温かく

食育、世代初のこども食堂試行 間交流へ

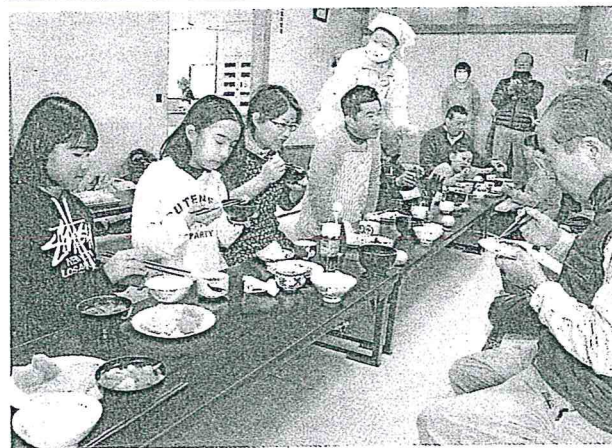
少子化や核家族化が進む中、人吉市西校区社会福祉協議会では、食を通じて地域住民と子どもたちが交流し郷土料理の伝承や食育につながる初めての試みとして4日、こども食堂をオープン。老若男女約40人が東西コミニ

ンに集い、調理や会食で交流を深めた。

近年、全国的に広がりをみせるこども食堂は、経済的な理由や孤立など、食に對し何らかの困難を抱えた子どもに安価で温かく、みんなで囲む食事や居場所を提供するもの。

しかし、同校区では「従来の趣向では参加できない、しづい子どもが出てくる。大人や親子を含め誰もが気軽に立ち寄り、仲良くなる場所になりたい」と食育や世代間交流を前面に打ち出して独自の展開を目指す。校区

社協主催のこども食堂は市内では初めて。開設に向け、昨年11月に人吉西小学校の児童と家族を対象に需要に関するアンケート調査を実施。「行ってみよう」「食べてみたい」などの反応があり、試行期間として今年度2



温かい手料理に舌鼓を打つ参加者

回の開設を計画した。名称は「ニコニコニシ食堂」とし、親子での参加や調理の体験も

可能。利用は無料。初回は校区の女性たちに教わりながら児童3人がオムレツ、だじななどの料理に挑戦した。校区住民も続々と集まり、温かい料理が運ばれると仲良く会食。子どもたちも「みんなでお食べるとおいしい」と喜び、ご飯やおかずをお代わりしていた。5年生の竹田莉菜さん(11)は「料理は家でたまに手伝います。自分が作るの、おいしい」と話している。母親の奈美さん(50)は「核家族が増えて親子に料理を教える時間がなかなか持てない。地域の方に料理の基礎から教わる良い機会ですね」と語った。白石信雄社協長(71)は「今回2月3日の取り組みや反響を検討材料とし、次年度以降につなげたい。郷土料理の体験なども盛り込み、まずは食事の楽しさの経験から広く健全育成の手助けになれば」と話している。

食で奥球磨と五木PR

うまかもんご当地クイズ大会も
物産展



農産物や加工品が並んだ販売テント

多良木湯前、水上、五木の4町村の特産品を集めた「奥球磨・五木のうまかもん物産展」が、3日に入吉温泉物産館(人吉市上青井町)4日はくま川下り発船場(同市下新町)でそれぞれ開かれ、各地域自慢の品々が訪れた観光客の注目を集めた。

物産品販売を通して奥球磨と五木村をPRし誘客につなげようと、奥球磨地域振興局

多良木湯前、水上、五木の4町村の特産品を集めた「奥球磨・五木のうまかもん物産展」が、3日に入吉温泉物産館(人吉市上青井町)4日はくま川下り発船場(同市下新町)でそれぞれ開かれ、各地域自慢の品々が訪れた観光客の注目を集めた。

また、物産館の商品券が当たる「人吉球磨ご当地クイズ大会」も開かれ、「五木村にしかない珍しい柑橘は」「水上村で大人気のジ

補正予算を 可決し休会

多良木町議会の2月会議は6日、平成29年度の一般会計補正予算案を原案可決し、休会した。

一般会計は歳入歳出に8395万1000円を追加し、67億9421万円とした。

事業は、生産技術高度化施設整備補助81

197万7000円、黒肥地小学校プールサイド改修工事費88万円の3件。

生産技術高度化施設整備補助は、1法人、2個人の球磨トマト生産管理組合に対して、総事業費約1億7700万円の低コスト耐候性ハウス3棟分への補助になっている。

建造物侵入 容疑で男逮捕

人吉警察署は、1日午前8時59分、人吉市下原田町、会社員尾方隼人容疑者(21)を建造物侵入の疑いで逮捕した。発表は5日付け。同署の調べによると、尾方容疑者は1月6日午前3時ごろ、同

市西間下町の温泉施設に、料金を支払わずに侵入した疑い。

この施設には券売機が置かれているが、入浴券を購入せず温泉を利用。従業員が気付いて同署に被害届けを出し、防犯カメラなどから割り出した。容疑を認めているという。

あすも降雪や

気が流れ込み、西高東、空気が乾燥し、火の取